



第3回 さわやかがあるこうかい開催

第七回北九州無法松ツーデーマーチに参加

九月二十九日(日)北九州市制五〇周年事業及び長崎街道開通四〇周年記念大会、森鷗外生誕一五〇周年を記念して『第七回北九州無法松ツーデーマーチ』のウォーキング大会が行われ、「さわやか」は第三回『さわやかあるこうかい』として事務局を含め八名が参加しました。



「エイエイオー！」のかけ声でイザ出発！！

今年には北九州市制五〇周年事業に伴い、昨年の大会で好評だった五〇キロコースをはじめ、四〇キロ、二〇キロ、十キロ、五キロコースがありました。今回、「さわやか」は昨年も参加した五キロコースと初めて参加する十キロコースの二手に分かれて挑戦しました。

小倉祇園太鼓の応援を受けながら出発

初めに出発式と準備運動を行ない、それぞれのコースの説明がありました。その後、小倉祇園太鼓の応援を受けながら午前十時

に十キロコースから順次出ました。

スタートとゴールは各コースとも北九州市庁舎前の勝山公園です。

十キロコースは、上りや下りの起伏のある福岡県立中央公園や原町緑地などを巡る「唐津街道探索コース」で、五キロコースは小倉の中心部を流れる紫川の川沿いを歩き、室町の火の橋から貴船橋までの九つの橋を



完全に渡る「橋巡りリバーウォークコース」でした。参加者は無事に？ゴール

完歩証をいただく...

日頃の体力不足や運動不足を痛感しながら、自分達のペースを保ち、五キロコースに参加した人は午後十二時三十分、十キロコースに参加した人は午後一時に無事にゴールをし、完歩証をいただきました。来年は、自分達の体調に合わせてコースを決めて参加する事を誓い、午後二時に解散しました。

私たちの活動と社会をつなぐための...

NPO『中間支援』を考える

(いったい何の「中間」を「支援」するのか?)

北九州NPO研究交流会第121回定例会参加

九月十三日(金)十八時三十分から八幡西障害学習総合センター大会議室で開催されました。北九州における「中間支援」を考えるシリーズとして今年五月から二回にわたり研修会が開催されてきましたが、前回まで都合により出席できませんでした。

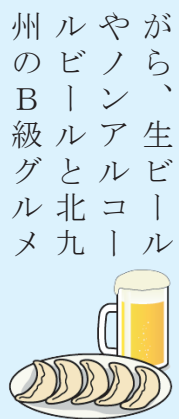
今回「北九州のいま」と題して開催され、「さわやか」から山田が出席しました。主催のNPO研究交流会の会員を中心に約四十名が参加しました。全体ワークでは、「北九州にはいま、どのような『中間支援』があるのか?」という問い掛けから始まりま

汗をかいた後の...

ビール&食事は、たまらん!

勝山公園の会場には、それぞれの協賛企業の商品を紹介するブースがあり、また、北九州のB級グルメの屋台も出店されていました。

解散後、それぞれ「汗をかいたあとのビールは...」などと言っていました。



がら、生ビールやノンアルコールビールと北九州のB級グルメで有名な焼うどんや、ギョウザを堪能しました。各自、今日の反省を踏まえ、家路に着きました。



先月発行した「さわやか」新聞二〇〇号の特集号に對しまして、たくさんの方からお祝いの言葉や、激励のお手紙をいただきました。この紙面を借りまして、御礼申し上げます。

また、改めまして、「さわやか」新聞二〇〇号にご協力いただいた皆様や「さわやか」を支えていただいております、全ての皆様から感謝申し上げます。今回、「さわやか」新聞二〇一号の発行にあたりまして、事務局一同初心に戻り、皆様から頂いた、お言葉や、激励を一つの励みとして、これからも精進して参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻いただきまますようお願い申し上げます。

東京からのメッセージ2013夏

移送サービス特別セミナー開催

七月二十七日(土)十時からウエルとばた会議室で、東京ハンディキャブ連絡会の主催と「さわやか」の共催にて「移送サービス特別セミナー『東京からのメッセージ2013夏』」が開催され、「さわやか」から五名参加しました。

この移送サービス特別セミナーは、九州で初の試みで行われました。

参加者は北九州市から福祉有償運送の事業所をはじめ、運営協議会の構成員、社会福祉協議会、保健福祉局、また遠方からは、大分県中津市や久留米市の社会福祉協議会から参加がありました。移送サービスの歴史を

振り返りながら

第一部は『移送サービス(福祉有償運送)の最新動向と制度への対応』と題して、代表の荻野陽一氏が、一九七〇年代後半からの移送サービスの歴史を振り返りながら、現在の移動困難者をめぐる状況やこの先十年後利用者へは気持ち良く外出ができて、運転協力者はやりがいをもって活動を行ない、その仲間は増えているのか、また福祉有償運送の移動権が認知されているのか等を話されました。

続いて事務局長の伊藤正章氏が『行政と運営協議会

への対応』と題して話があり、自治体が運営協議会を設置する事は法律上に定められた事なので、要請があれば設置義務があります。設置しない場合は、運輸支局や県が指導しなければいけません。

適時、適切に見直してほしい

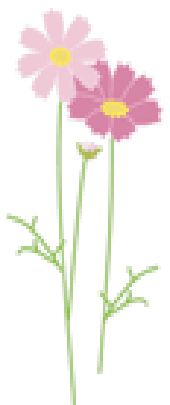
最後に、運営協議会における合意形成のあり方検討

災害の救援活動を取り組む為に大切なこと

このセミナーの締めくくりとして『災害救援活動の取り組みをより進めるために』と題してパネルディスカッションを行いました。

進行の荻野氏は「三人のパネラーの方々に災害の救援活動を取り組む為に大切な事を話して頂きたいと思

います」と話されました。初めに大分県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター専門員の村野淳子氏は「災害の支援には避難行動があり、それが厳しい



会では、運営協議会の趣旨等に関する構成員の理解向上の必要性やローカルルールを適時適切に見直してほしいと話されました。

第二部は『災害時に発揮したい移送サービスのチカラ』と題して、荻野氏が『災害時要援護者の課題と移送サービスの役割』として東京都世田谷区の災害時要援護者関連の取り組みとして災害時要援護者支援制度や災害時の要援護者の気持ち、移送サービスの役割などに

ついて話されました。

次に腎臓病連絡協議会すらんの会事務局長の伊藤絵利子氏は『災害時における移送サービスの課題と行政との連携』について東日本大震災時の経験を交えながら話されました。

そして北九州市危機管理室危機管理課災害対策係長の森成司氏は『北九州市における行政の取り組み』と題して北九州市の災害時要援護者避難支援事業をはじめ、防災に関する情報の収集手段や今後、どのような防災を行なっていくのかなどの話がありました。

事により、健常者よりも障害者の方が約二倍の死亡率という報告が上がっています。移送サービス事業者が

どのように関わるのか

災害時に移動手段の確保を移送サービス事業者がどのように関わっていくのかが非常に大きな課題だと思

います。北九州市には福祉有償運送実施団体が十団体あるそうですので、災害時にも対応が出来るような勉強会や、



訓練が出来るのであれば、活動をしたいと思

と話されました。続いて伊藤正章氏は「東日本大震災では被災者支援よりは、それを手助けする支援を行いました。

しかし東北自動車道は緊急車両以外は通行止めになつていたので、自治体が緊急登録車両のステッカーや高速道路の無料券を発行してくれました。

まず、一番最初に行なつた活動は、他県の社会福祉

協議会の職員が応援に行くための送迎や物資輸送の協力を行ないました。他には、依頼があった医療チームなどの送迎ボランティアを行いました。

やはり日頃からの行政や自治体との連携を取っておかなければ、いざという時に協力はしてくれないと思います」と話されました。

被災した時の

連絡方法の確認を

次に伊藤絵利子氏は「東日本大震災の時、私達の団体では災害用伝言ダイヤルを活用しました。

ドライバースさん自身の状況を伝言ダイヤルにメッセージを吹き込んでもらい、その状況を団体が把握して連絡を取り合いました。

ぜひ、各団体においてはドライバースさんが被災した時の連絡方法を確認しておくと事が大事だと思います」と話されました。

移送サービスを考えるなかで

連絡会が必要なのは

最後に今後、北九州市の移送サービスを考える中で、連絡会などが必要ではないかとの声が上がっており、移送サービス特別セミナーは十七時に閉幕しました。